

直翅類

ここでは、直翅目昆虫のうち、分類学的な研究が遅れており、県内産の種についても整理が不十分なカマドウマ科、ヒシバツタ科を除く10科について扱う。これらのグループには大型の昆虫が多く、また鳴く虫として親しまれてきた種類も少なくない。県内の直翅類について、初めて全体的なまとめを行ったのは、佐藤(1981)で、ついで西村・浜口(1989)がそれまでの文献記録を整理して、102種を報告した。地域別のリストとしては、湘南(浜口・槐, 1987)、城ヶ島(西村・戸嶋, 1988)、大和市(西村, 1991)、二宮町(浜口・槐, 1990)、茅ヶ崎・藤沢(岸, 1995)などがあるが、分布に関する情報の蓄積はいまだに十分とはいえない。ここではこれらの文献を参考に、特に減少が目立つ種を中心に解説する。対象としたのは10科98種で、それらのレッドデータ度は一覧表として表1に示した。全体では絶滅種2種、絶滅危惧種6種、減少種11種、希少種5種、健在種72種、偶発種・帰化種2種と判断された。なお、分類配列や学名は、細井・加納(1991)によった。

キリギリス科 Tettigoniidae

県内からは、現在まで32種が記録されている。そのレッドデータ度は表にまとめた通りで、3種が減少種、1種が希少種と判断された。

△クツワムシ *Mecopoda niponensis* (De Haan)

【減少種H】

〔生息環境〕明るい林の林縁や、ススキやクズの茂った背の高い草原に生息する。集中して生息する傾向があり、環境が似ていても、ある場所には群生し、他の地点にはまったく見られないことがしばしばある。

〔過去の分布〕かつては市街地の緑地にも見られたが、生息地が著しく減少している傾向にある。横浜市の調査では48ヶ所の緑地の内でわずかに2ヶ所だけで記録された(高桑, 1991)。相模原市では、かつては市内全域に生息していたが、雑木林の林縁のマント群落が刈り取られたために急速に姿を消しつつあるという(相模原市動物調査会, 1986)。平塚市では中心部の八幡神社の境内に1970年代には生息していたが現在では見られない。

〔調査結果〕本調査の期間中には、中井町古怒田、大井町赤田・高尾(以上酒井春彦氏私信)、南足柄市大雄山(荻部)、愛川町志田山(高桑)、大和市泉の森・上和田、秦野市弘法山、真鶴半島(以上浜口)などで記録された。大和市泉の森のように現在でも多産する都市緑地もあるが、全体的な減少傾向は明らかで、絶滅に向かう恐れもある。

△オナガササキリ *Conocephalus gladiatus* (Redtenbacher)

【減少種H】

〔生息環境〕チガヤなどの茂る土堤に生息し、谷戸ではしばしば水田にも入る。かつてはどの地域でも普通種であったと思われるが、全体に減少傾向にある。

〔過去の分布〕県内の平地に広く記録がある(西村・浜口, 1989)。しかし、都市部では少なく、横浜市の調査では48ヶ所の緑地の中で、わずかに1ヶ所で記録された

けであった(高桑, 1991)。

〔調査結果〕本調査では、横須賀市野比、葉山町下山口、小田原市栢山酒匂川、秦野市弘法山・大倉、平塚市南金目・土屋・吉沢、大磯町西小磯・石神台、厚木市飯山(以上浜口)などで記録された。平塚市での観察によると、本種の生息地は丘陵地に限られており、良好な丘陵地の自然環境の指標となる種の一つと考えられる。

△キリギリス *Gampsocleis buergeri* (De Haan) 【減少種H】

〔生息環境〕チガヤ・カゼクサなどの茂る背の低い草原に生息する。盛夏に成虫が出現し、日中に、ギースチョンとゆっくりと鳴く。

〔過去の分布〕県内の平地に広く記録がある(西村・浜口, 1989)。

〔調査結果〕本調査では、平塚市吉沢・南金目、大磯町西小磯、山北町山北(以上浜口)などで記録された。かつては、市街地の空き地などでもよく声が聞かれたが、近年は減少が目立つ。舗装が進み、市街地から草地が消えたことが減少の大きな原因であると考えられる。酒匂川では、土手をブルドーザーで広範囲にはぎとり芝を植えてから姿を消したという(酒井春彦氏私信)。

▲ヒサゴクサキリ *Agroecia lutea* (Matsumura et Shiraki)

【希少種】

〔生息環境〕本種は南方系の種で、メダケを食草とすることが知られ、メダケの藪に生息していて、夜間活動する。近縁種と比較して、小さな声でしか鳴かないので発見しづらい。

〔調査結果〕本種は伊豆半島南部には多く産し、また房総半島からも知られているが、神奈川県では1993年になって、小田原市(酒井, 1993)と平塚市(浜口, 1993)でそれぞれ1個体が採集されたに過ぎない。生息状況は不明であるが、メダケの藪は広く見られるので、今後も発見の可能性がある。メダケは小河川の土手に群生していることが多いが、河川改修によって急速に失われつつある。また、そうした特定の環境と結びついた種は、環境の変化で容易に消滅するので特に記載した。

コロギス科 Gryllacrididae

県内からは2種が記録されている。両種とも雑木林を中心に生息しており、その分布状況は必ずしも明らかではないが、現状では健在と判断される。

コオロギ科 Gryllidae

県内からは35種が記録されているが、そのうちの1種が絶滅種、3種が絶滅危惧種、5種が減少種と判断された。

コオロギ科に属する昆虫は、平地から丘陵地の草原的な環境を棲み場所としている種が多く、農耕地などの人里的な環境によく入り込んでいる。その中にはエンマコオロギ・ツツレサセコオロギなどの広分布種が含まれ、これらの種は現在の所、農村的な環境に広く見られる。しかし、こうした種も京浜地区のように市街地化が著し

表. 神奈川県産直翅類レッドデータ度一覧

科・種名	RD度	衰退原因	備 考
キリギリス科			
ツユムシ	健在K		湿地に普通
アシグロツユムシ	健在J		丘陵地の林縁に生息
セスジツユムシ	健在L		平地～低山地に普通
エゾツユムシ	健在J		丘陵地～山地に普通。平地の分布は局地的
ホソクビツユムシ	健在J		山地に普通
ヘリグロツユムシ	健在J		山地に産するが少ない
サトクダマキモドキ	健在J		丘陵地に産するが少ない
ヤマクダマキモドキ	健在J		丘陵地～山地に産するが少ない
タイワンクツワムシ	移入M		横浜市の1例のみ。在来个体か疑問
クツワムシ	減少H	マント群落・藪の減少	多産地もあるが、減少傾向
ハヤシノウマオイ	健在K		丘陵地～山地に普通
ハタケノウマオイ	健在J		平地に見られるが少ない
クビキリギス	健在L		平地～丘陵地に普通
シブイロカヤキリモドキ	健在J		平地～丘陵地に産するが少ない
カヤキリ	健在J		三浦半島などに限られる
ヒサゴクサキリ	希少I*		2例のみ
ヒメクサキリ	健在J		丘陵地～山地に普通
クサキリ	健在K		平地～丘陵地に普通
ホシササキリ	健在J		平地に産するが少ない
オナガササキリ	減少H	草の茂った土堤の減少	丘陵地～低山地に産するが減少傾向
ウスイロササキリ	健在L		平地～丘陵地に普通
コバネササキリ	健在J		平地～丘陵地に見られるが少ない
ササキリ	健在K		平地～丘陵地に見られるが産地は限られる
ササキリモドキ	健在I		三浦半島・湯河原の記録のみ
セスジササキリモドキ	健在I		丹沢山麓・大磯丘陵に産するが少ない
ヒメツユムシ	健在I		丹沢に産するが少ない
クロスジコバネササキリモドキ	健在I		丹沢・箱根などに産するが少ない
ヒメヤブキリモドキ	健在J		丹沢に産するが少ない
コバネヒメギス	健在K		平地～山地に普通
ヒメギス	健在K		平地～丘陵地の湿地に普通
キリギリス	減少H	草地の減少	平地～丘陵地に見られるが減少傾向
ヤブキリ	健在L		平地～山地に普通
コロギス科			
ハネナシコロギス	健在J		丘陵地～山地に見られるが少ない
コロギス	健在J		丘陵地～山地に見られるが少ない
コオロギ科			
クロツヤコオロギ	減少G	安定した土堤の減少	県西の丘陵地に局地的
ツツレサセコオロギ	健在L		平地～低山地に普通
コガタコオロギ	健在I		丘陵地に産するが局地的
タンボコオロギ	健在K		平地の水田などに普通
クマコオロギ	健在K		平地の水田などに普通
ヒメコオロギ	健在J		低山地に普通
モリオカメコオロギ	健在K		丘陵地～低山地に普通
ハラオカメコオロギ	健在L		平地～丘陵地に普通
タンボオカメコオロギ	健在I		仙石原のみで記録があるが、調査は不十分
ミツカドコオロギ	健在L		平地～丘陵地に普通
オオオカメコオロギ	危惧D	産地が局限され、工事などの影響を受けやすい	箱根山麓に局地的に分布
エンマコオロギ	健在L		平地～丘陵地に普通
エゾエンマコオロギ	危惧D	河川敷の高度利用と車の乗り入れ	多摩川では絶滅。相模川でも絶滅寸前
クマスズムシ	健在J		平地～丘陵地に産するが少ない
クチキコオロギ	健在J		真鶴半島、三浦半島に普通
マツムシ	減少H	草原の減少	各地に見られるが減少傾向
アオマツムシ	移入M		平地に極めて多い

表. 神奈川県産直翅類レッドデータ度一覧 (2)

科・種名	RD度	衰退原因	備 考
カヤコオロギ	減少G	安定した土堤の減少	局地的
スズムシ	減少H	草原の減少	各地に見られるが減少傾向
カンタン	健在K		丘陵地～山地に普通
ヒロバネカンタン	絶滅A	生息地の開発	茅ヶ崎に記録があるが絶滅
クサヒバリ	健在K		丘陵地に普通
キンヒバリ	減少G	谷戸の開発	平地の限定されたヨシ原に生息
カヤヒバリ	健在J		三浦半島に広く分布。他では稀
ヤマトヒバリ	健在K		丘陵地に産するが少ない
キアシヒバリモドキ	健在J		丘陵地～山地に産するが少ない
ヤチスズ	健在L		平地～丘陵地の水田や湿地に普通
エソスズ	健在J		山地の草原に産するが少ない
ヒメスズ	健在I		南部を中心に分布するが少ない
マダラスズ	健在L		平地～低山地に普通
カワラスズ	健在J		河原の砂礫地と鉄道線路に分布
ヒゲシロスズ	健在K		丘陵地～低山地に産するが少ない
シバスズ	健在L		平地～丘陵地に普通
ナギサスズ	危惧D	海岸部の道路建設などによる環境変化	県西部、三浦半島等に局地的に分布
ウスグモスズ	健在J		平地に見られるが少ない
カネタタキ科			
カネタタキ	健在L		平地～丘陵地に普通
イソカネタタキ	減少G	海岸部の草原の減少?	県西部、三浦半島に局地的に分布
アシジマカネタタキ	危惧D	?	県西部に局地的に分布
アリツカコオロギ科			
アリツカコオロギ	健在K		平地～丘陵地に生息するが分布状況は不明
ケラ科			
ケラ	減少H	水田の乾田化?	平地～丘陵地の湿地に生息
ノミバッタ科			
ノミバッタ	健在K		平地～丘陵地に普通
オンブバッタ科			
オンブバッタ	健在L		平地～丘陵地に普通
イナゴ科			
ハネナガイナゴ	危惧F	農薬汚染?	丘陵地に局地的
コバネイナゴ	健在L		平地～低山地に普通
ツチイナゴ	健在K		平地～低山地に普通
セグロイナゴ	希少I *		2例の記録のみ
ハネナガフキバッタ	健在I		丹沢で見られるが少ない
アオフキバッタ	希少I *		丹沢・藤野町で見られるが局地的
タンザワフキバッタ	健在K		丘陵地～山地に普通
ヤマトフキバッタ	健在K		丘陵地～山地に普通
バッタ科			
ショウリョウバッタ	健在L		平地～丘陵地に普通
ショウリョウバッタモドキ	減少H	安定した土堤の減少	丘陵地に見られるが減少傾向
トノサマバッタ	健在K		平地～丘陵地に普通
クルマバッタモドキ	健在L		平地～丘陵地に普通
クルマバッタ	健在J		平地～丘陵地に見られるが少ない
イボバッタ	健在K		平地～丘陵地に見られるが少ない
カワラバッタ	危惧D	河川敷の高度利用と車の乗り入れ	相模川・酒匂川で急激に減少
ヤマトマダラバッタ	絶滅A	道路建設などによる砂丘植生の消失?	大磯で記録があるが絶滅
マダラバッタ	健在J		海岸や河原の草原に見られるが少ない
イナゴモドキ	希少I *		箱根などに局地的に分布
ツマグロイナゴモドキ	希少I *		箱根などに局地的に分布
ナキイナゴ	健在K		山地に普通。丘陵地では局地的
ヒロバネヒナバッタ	健在J		山地に普通。
ヒナバッタ	健在J		平地～丘陵地に産するが少ない

く進行した地域からは姿を消すのは当然である。ここでは、都市近郊の農村部を念頭におき、そうした環境からも減少している種を減少種・絶滅危惧種として扱った。

また、コオロギ科の中には、特殊な生息環境に限定される種がある。転石海岸のナギサスズ、ヨシ原のキンヒバリ、土堤のクロツヤコオロギ・カヤコオロギ、砂礫地の河原のエゾエンマコオロギ・カワラスズがその例である。これらはカワラスズが鉄道線路やロックフィルダムにも進出して健在である例外を除いてはいずれも、減少または絶滅危惧種に位置づけられる。また、分布の北限に近い種として、カヤヒバリ・クチキコオロギ・ヒメスズがあげられ、これらの種は真鶴半島・三浦半島などに限られた分布を示している。こうした種は、今回減少種などの扱いをしていない場合も重要であり、その分布動向に注目を払う必要がある。

●ヒロバネカントン *Oecanthus* sp. 【絶滅種A】

〔生息環境〕海岸の草原に生息する。南方系の種で、太平洋岸では茨城県が北限となっている。

〔過去の分布〕神奈川県では、松浦（1972 a）に、茅ヶ崎の海岸近くの松林の中にたくさん鳴いていたが、隣接地にホテルが建ち今では1匹もいなくなったという記述がある。詳細は不明だが、これが唯一の情報である。

〔調査結果〕上記以外に記録がなく、また本調査でも発見できなかったのもので、絶滅したものと判断される。

○オオオカメコオロギ *Loxoblemmus magnatus* Matsuura

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕大型のオカメコオロギ類で、全国的にみても十数カ所の産地が知られているだけの希少な種類である。畑・社寺の境内などに生息し、まばらな草地を好むようである。ただし、その生息条件は必ずしも明らかでない。

〔過去の分布〕神奈川県では酒井春彦氏によって小田原市荻窪に産することが明らかにされた（酒井，1988）。また同氏は、山北町浅瀬（酒井，1991）、中井町古怒田、小田原市飯田岡、南足柄市飯沢でも本種の分布を確認している。しかし、山北町の産地の河原は河川工事が行われておそらく絶滅したと思われる。

〔調査結果〕小田原市荻窪の産地では本調査でも生息が確認できたが、その個体数は少なく、公園化の工事が行われたために減少したと思われる。本種は箱根山麓のごく限られた産地にだけ分布する種で、その存在基盤はきわめて脆弱であるといえる。

○エゾエンマコオロギ *Teleogryllus yezoemma* (Ohmachi et Matsuura) 【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕エンマコオロギによく似るが、頭部の白紋が小さい。北海道には広く分布するが、本州では大きな川の河原の砂礫地と海岸砂丘に分布が限られている。本州産のものは亜種カワラエンマコオロギとして扱われることもある。

〔過去の分布〕南関東の分布は南限に近い重要なもので、多摩川と相模川から記録がある。相模川では野沢（1959）による厚木付近の報告が最初で、松浦一郎氏もたびたび相模川の分布に触れている。浜口は寒川町一宮の河原で採集し、その標本は大阪市立自然史博物館に収蔵されている（直翅類研究グループ，1983）。また平塚市博物館に

は厚木市依知産（1988.9.18、浜口採集）の標本がある。多摩川では、発見者の松浦一郎氏による綿密な記録が残されており、1933年の調査では拝島から二子付近まで広く分布していたが、1970年には関戸橋付近にわずかに残る状況になったという（松浦，1972 b）。氏の示した分布の変遷図によると、神奈川県内の多摩川には1940年代までは本種が生息しており、その後姿を消したようである。〔調査結果〕本調査では厚木市、相模原市を中心に相模川の河原を探索したが、まったく発見できず、相模川における本種はきわめて危機的な状況にあることが予測される。

○ナギサスズ *Parapteronemobius sazanami* Furukawa

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕無翅のコオロギ類で、転石海岸に生息し、砂浜には見られない。岸壁やテトラポットのような人工化された海岸に見られた例もある。

〔過去の分布〕真鶴海岸はタイプロカリティーの一つである（Furukawa，1970）。1960年代には山口貢氏が分布調査を行い、小田原市の早川・石橋・根府川と真鶴町の岩・真鶴、三浦半島野比海岸から記録した（山口，1968；1970）。また、浜口・槐（1987）によって江ノ島からも記録された。このように、本種は県内の転石海岸に点々と分布していた。

〔調査結果〕本調査では、1985年に採集された真鶴町岩海岸では発見できず、わずかに根府川海岸で1個体が目撃（浜口）されただけであった。神奈川県ではもともと転石の海岸が少ない上に、道路の建設などによって現状が変化した部分もあり、本種は絶滅寸前の危険な状況にあることが推測される。

△クロツヤコオロギ *Phonarellus ritsemae* (Saussure)

【減少種G】

〔生息環境〕チガヤなどの茂る安定した土堤に深い巣穴を掘って生活し、丘陵地の段々畑や果樹園の法面が主要な生息地である。

〔過去の分布〕神奈川県では南足柄市（小林，1985）、平塚市金目（浜口，1988）から分布が知られているだけであった。

〔調査結果〕本調査の期間中に、平塚市万田、大磯町虫窪・国府本郷、秦野市権現山（以上浜口）、小田原市府川、大井町金子・篠窪（以上酒井春彦氏私信）で、新たに分布が確認された。しかし、三浦半島などでは広範囲の探索にも係わらず、発見はできなかった。県内での本種の分布は相模川以西の丘陵地に限られるようで、産地は非常に限定されている。そうした場所の土堤は農道の改修に伴うコンクリート壁の築造などによって失われつつある。そうした状況を考えると容易に危機的な状況に陥る恐れがある。

△カヤコオロギ *Euscyrus japonicus* (Shiraki) 【減少種G】

〔生息環境〕黄褐色をした無翅のコオロギで、チガヤなどの茂る土堤を好んで生息する。

〔過去の分布〕県内の産地としては、湯河原町城山、大磯町国府本郷、厚木市飯山（いずれも平塚市博物館所蔵標本）、小田原市荻窪（酒井春彦氏私信）などがあり、産地には多産することが多いが、分布は限定されている。

〔調査結果〕上記の産地のうち、厚木市飯山、小田原市荻窪では現在も生息が確認できた。他の産地は未調査で、また新たな産地も見えなかった。丘陵地では住宅開発や農道の拡張工事などによって安定した土壌は失われつつあり、減少が予想される。

△キンヒバリ *Anaxipha* sp.

【減少種G】

〔生息環境〕淡黄色をした小型のコオロギ類で、湿地のヨシやクサヨシの草原に生息する。稀に水田に入ることもある。

〔過去の分布〕かつては神奈川県内では非常に珍しい種と考えられており、厚木市七沢が唯一の産地として知られていた（西村・浜口，1989）。しかし、その後調査が進み、横浜市緑区、栄区など各地のヨシ原に分布することが明らかにされてきた（古南，1991）。

〔調査結果〕本調査の期間中に、葉山町長柄、横須賀市久留和、平塚市南金目・土屋、大磯町西小磯・生沢（以上浜口）、茅ヶ崎市堤の清水谷戸、藤沢市遠藤の笹窪谷戸（岸，1995）などで確認された。本種の分布は良好な状態に湿地が残されている場所に限定されているようで、そうした環境は特に市街地近郊では急速に失われている。

△スズムシ *Homoeogryllus japonicus* (De Haan)

【減少種H】

〔生息環境〕ススキなどのよく茂った深い草地に生息する。

〔過去の分布〕よい声で鳴く虫の代表で、さかんに飼育が行われているが、野外で声を聞くことは少ない。県内では京浜を除く各地で記録がある（西村・浜口，1989）。横浜市の調査では、48ヶ所の緑地で1ヶ所も記録されなかった（高桑，1991）。

〔調査結果〕本調査の期間中には、大磯町西小磯（浜口）、大井町金手（酒井春彦氏私信）、愛川町八菅（高桑・莉部）、戸塚区舞岡町（高桑）などで記録された。どの産地も個体数は少なく、減少傾向にある。

△マツムシ *Xenogryllus marmoratus* (De Haan) 【減少種H】

〔生息環境〕チガヤなどの茂った深い草地に生息する。

〔過去の分布〕神奈川県内における分布は、局地的で、三浦半島では野比、城ヶ島（浜口）など海岸部の草原に限られる。横浜市の調査では48ヶ所の緑地で1ヶ所も見えられていない（高桑，1991）。相模原市では、上大島・望地などには多いが、西大沼・東大沼・旭町などでは絶滅したという（相模原市動物調査会，1986）。湘南では相模川や金目川の土手などに局所的に見られ、大磯町では1ヶ所の土堤に限りて群生する。西湘では、大井町金手、小田原市栢山の酒匂川土手に多産する（酒井春彦氏私信）。

〔調査結果〕本調査では、横須賀市野比、三浦市城ヶ島、大磯町寺坂、秦野市弘法山（以上浜口）などで記録された。県内の本種の分布は多産地はあるが局地的で、絶滅した箇所もあり、減少傾向にあるといえる。

カネタタキ科 *Mogoplistidae*

県内からは3種が記録されており、1種が絶滅危惧種、1種が減少種と判断された。

○アシジマカネタタキ *Ectatoderus* sp. 【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕沿海地方に分布する暖地性のカネタタキ類で、海沿いの低木林に生息する。

〔過去の分布〕県内では、浜口・槐（1987）によって初めて真鶴町岩から記録され、これが唯一の記録である。この産地の環境は、転石海岸の後背地の急斜面の広葉樹林で、低木の茂みから採集されたものである。

〔調査結果〕本調査では上記の産地からは発見できなかった。環境の変化は特に見られなかったことから、絶滅と断定はできず、一応絶滅危惧種のランクに位置づけた。しかし、県内の分布は極めて限定されており、容易に絶滅の可能性がある。

△イソカネタタキ *Ornebius bimaculatus* (Shiraki)

【減少種G】

〔生息環境〕雄の前翅に小さな黒点を持つカネタタキ類で、海岸近くのススキなどの草原や低木に生息する。

〔過去の分布〕県内では、山口（1965）によって小田原市早川海岸、佐藤（1981）によって真鶴に分布することが報告され、その後、西村・戸嶋（1988）によって城ヶ島、浜口・槐（1987）によって江ノ島が追加された。

〔調査結果〕本調査では、1985年には多数が見られた真鶴町岩では発見できなかったが、早川海岸で確認され、また城ヶ島で相当数の個体が鳴いているのが観察された。しかし、全体的には分布は限定されており、減少している場所もあって、環境の変化によって容易に絶滅する恐れがある。

ケラ科 *Gryllotalpidae*

県内には1種が分布しており、ケラが減少種と考えられた。

△ケラ *Gryllotalpa orientalis* Burmeister 【減少種H】

〔生息環境〕平地から丘陵地の湿地に生息し、水田の周辺も好む。

〔過去の分布〕本種の記録は実際の分布に比べてわずかしかなかった。横浜市、平塚市、小田原市の記録があるに過ぎない（西村・浜口，1989）。その後、寒川町・厚木市（平塚市博物館，1991）、大和市（西村，1991）、二宮町（浜口・槐，1990）でも記録された。

〔調査結果〕本調査では、平塚市南金目・広川、大磯町西小磯（以上浜口）、横浜市戸塚区舞岡町（高桑）などで記録された。かつては水田地帯に多く分布していたと考えられるが、現在は広く分布しているものの、個体数はかなり減少したように感じられる。その原因としては本種が湿った土中に巣穴を掘る習性を持っており、水田が乾田化して越冬条件が悪くなっていることが考えられる。

アリツカコオロギ科 *Myrmecophilidae*

アリ類の巣の中に生息する特異な習性の直翅類で、県内からはアリツカコオロギ1種が記録されている。その分布に関する情報は非常に少ないが、各種のアリの巣中に見られることから、一応健在種と判断された。

イナゴ科 *Catantopidae*

県内からは8種が記録され、1種が絶滅危惧種と判断された。また分布が極めて限定される2種を希少種とし

てコメントする。

○ハネナガイナゴ *Oxya japonica* (Thunberg)

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕水田に生息するイナゴ類で、コバネイナゴとともに広く分布していたが、農薬の使用によって激減したとされている。福原（1982）は1950年ごろからの激減期より前には東京近郊ではコバネイナゴに対して3分の1から1.5倍の密度を保っていたと述べている。

〔過去の分布〕県内における過去の分布についての資料はないが、近年の記録は厚木市七沢（西村1987b）、城山町穴川（西村1987c）など丹沢山麓の谷戸の水田に限られている。また、伊勢原市子易で行われた無農薬栽培の実験田には本種が出現した（浜口、1993）。

〔調査結果〕本調査では厚木市荻野（浜口）、厚木市七沢、愛川町角田（以上高桑）で新たに記録された。本種は農業害虫に位置づけられることもある種だが、現在の分布は極めて限られており存在基盤は脆弱である。

▲アオフキバッタ *Parapodisma subaptera* (Hebard)

【希少種】

〔生息環境〕北日本に分布する微翅のフキバッタ類で、一般には林縁の低木に生息する。

〔過去の分布〕県内では、丹沢山地の秦野市菩提峠と藤野町上和田・生藤山のみで記録されている（西村・浜口、1989）。この産地は本種の南限である（浜口、1990）。

〔調査結果〕本調査では、秦野市菩提峠に生息することが確認され、隣接地の二の塔山頂付近でも記録された。しかし、その他の丹沢山地からは未発見で、藤野町生藤山との間に広い分布の空白域がある。そうした特異な分布は非常に興味深い。菩提峠の産地は、カヤ場の環境をよく残したススキ草原であり、今後の植生の遷移が進むことで環境が変化し、本種の生息が危うくなる可能性がある。

▲セグロイナゴ *Shirakiacris shirakii* (Bolivar) 【希少種】

〔生息環境〕川の土手などの草地に生息する。

〔過去の分布〕県内からは横浜市内2ヶ所の記録があるだけである（横浜市公安局対策局、1983）。

〔調査結果〕本調査では記録されず、上記以外の報告もないので、現在の生息状況はまったく不明である。

ノミバッタ科 Tridactylidae

ノミバッタ1種が記録された。本種は畑などにも見られる健在種である。

オンブバッタ科 Pyrgomorphidae

オンブバッタ1種が記録され、空き地や農耕地に広く分布する健在種と判断された。

バッタ科 Acrididae

県内からは14種が記録され、その内絶滅種が1種、絶滅危惧種が1種、減少種が1種と判断された。また分布の限定される2種を希少種としてコメントした。

●ヤマトマダラバッタ *Epacromius japonicus* (Shiraki)

【絶滅種A】

〔生息環境〕コウボウムギなどの疎らに生えた海岸砂丘に生息する種。近県では静岡県浜岡砂丘・中田島砂丘、茨

城県東海村などが産地として知られている。

〔過去の分布〕古川（1948）の記事に「余が大磯で観察したところでは・・・」という表現があり、この大磯は神奈川県大磯町と考えてよいと思われる。これが唯一の記録である。

〔調査結果〕本調査で、大磯海岸を探索したが発見はできなかった。上記以外の記録もなく、砂浜の後退などの環境変化から考えても、絶滅種にあげてよいと思われる。

○カワラバッタ *Eusphingonotus japonicus* (Saussure)

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕大きな川の河原の砂礫地に限って生息する。

〔過去の分布〕かつては相模川と酒匂川に普通に見られた。例えば、寒川町一之宮の相模川の河原では1970年代後半には相当数が生息していた。また相模原市神沢では1988年には狭い範囲に生息が確認できたが、1990年には河川敷利用のために砂利の大量移動が行われ、その地点では確認できなかったという（相模原市教育委員会、1990）。酒匂川水系では、小田原市飯泉などの河原で普通に見られ、上流部の世附川浅瀬でも記録された（酒井春彦氏私信）。多摩川については情報が少ないが、二子渡し付近（現在の川崎市高津区）に多産するという記事（梅沢、1906）があるが、現在は見られない。

〔調査結果〕本種は近年著しく減少している。本調査期間中の記録としては、相模川では愛川町小沢（浜口）、中津川では愛川町八菅（高桑）・海底（荻部）があるだけであり、かつて生息していた寒川町一之宮、小田原市栢山・飯泉では確認できなかった。また、世附川浅瀬の産地は1993年の河川工事によって絶滅した。どの河川でも、グラウンドなどによる河川敷の利用や、河原に車が多く進入することで砂礫地が踏み固められることなどが本種の減少に拍車をかけており、早急な保護対策が求められる。

△ショウリョウバッタモドキ *Gonista bicolor* (De Haan)

【減少種H】

〔生息環境〕丘陵地の土堤に産し、チガヤなどの茂った場所を好む。

〔過去の分布〕県内では丘陵地を中心に広く記録がある（西村・浜口、1989）。

〔調査結果〕本調査期間中の記録としては、戸塚区舞岡町、金沢区六浦・金沢自然公園、三浦市城ヶ島（以上高桑）、中区本牧（荻部）、秦野市弘法山、平塚市金目（以上浜口）があげられる。全体に市街地からはほとんど姿を消し、分布が限定されてきている。飛ぶことがほとんどなく跳躍力も弱いので、今後も減少が懸念される。

▲イナゴモドキ *Mecostethus alliaceus* (Germar) 【希少種】

〔生息環境〕湿地や水田、ススキなどの草原に生息する。

〔過去の分布〕県内からは湯河原町城山（西村・浜口、1989）のみから知られていた。

〔調査結果〕本調査で、山北町大野山で記録され、また箱根町仙石原のススキ草原にも分布し、個体数も相当多いことが明らかになった。しかし、産地は局限されており、環境の変化によって容易に絶滅する恐れがある。

▲ツマグロイナゴモドキ *Stethophyma magister* (Rehn)

【希少種】

〔生息環境〕ヨシ原や休耕田など湿性の草原に生息する。

[過去の分布] 県内からは緑区寺家（西村，1987 a）のみから知られていた。

[調査結果] 本調査で箱根町仙石原にも分布することが明らかになった。しかし，産地は局限されており，環境の変化によって容易に絶滅する恐れがある。

文献

- 直翅類研究グループ，1983. 日本の直翅類（大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第15集）. 101 pp.
- 福原梢男，1982. 水田に見られる直翅目害虫の見分け方 (1). 植物防疫，36 (11): 34-38.
- 古川晴男，1948. 海辺の直翅類. 新昆虫，1 (5): 8-12.
- Furukawa, H., 1970. Two new interesting genera and species of cricket of Japan (Orthoptera). Kontyu, 38 (1): 59-66.
- 浜口哲一，1993. 小観察メモ. バッタリギス，(100): 30-31.
- 浜口哲一，1990. 南限のアオフキバッタ. バッタリギス，(87): 44.
- 浜口哲一・槐真史，1987. 湘南地方の直翅類の分布. 湘南地方昆虫調査報告書，(3): 45-65. 平塚市博物館.
- 浜口哲一・槐真史，1990. 直翅類. 二宮町史（資料編1自然），pp. 381-390.
- 細井孝昭・加納康嗣，1991. 日本産直翅目種名目録（改訂版）. バッタリギス，(92): 付録11-18. 日本直翅類研究会.
- 岸一弘，1995. 茅ヶ崎・藤沢の直翅類. 茅ヶ崎市文化資料館研究報告（印刷中）.
- 小林正明，1985. 日本の秋の虫. 161 pp., 築地書館，東京.
- 古南幸弘，1991. 湘南の近隣地域のキンヒバリとカヤヒバリの記録. 湘南昆虫，(2): 43-46. 湘南昆虫研究会.
- 松浦一郎，1972a. 鳴く虫雑記10. 野鳥，37 (5): 35-40.
- 松浦一郎，1972b. ムシ（多摩川の現状10）. URBANKUBOTA, (7): 24-25.
- 西村正賢，1987a. 横浜市緑区寺家町の直翅目. 神奈川自然誌資料，(8): 89-94.
- 西村正賢，1987b. 丹沢七沢の直翅目・カマキリ目. 神奈川虫報，(83): 1-16.
- 西村正賢，1987c. 津久井郡城山町の直翅目の記録. 神奈川虫報，(84): 26-28.
- 西村正賢，1991. 大和市のバッタ（直翅）目. 大和市の昆虫，pp. 27-34. 大和市教育委員会.
- 西村正賢・浜口哲一，1989. 神奈川県産直翅目目録. 自然と文化，(12): 69-90. 平塚市博物館.
- 西村正賢・戸嶋一成，1988. 三浦市城ヶ島の直翅類. 神奈川虫報，(86): 3-6.
- 野沢登，1959. コオロギとキリギリスの生活. 日本昆虫記，5: 135-254. 講談社，東京.
- 相模原市動物調査会，1986. 相模原の動物生息状況等調査報告書. 62 pp. 相模原市教育委員会.
- 酒井春彦，1988. 小田原（神奈川県）よりオオオカメ. バッタリギス，(80): 49-50.
- 酒井春彦，1993. 神奈川よりヒサゴクサキリ. バッタリギス，(100): 33.
- 佐藤勝信，1981. 神奈川県のコオロギ・バッタ・カマキリ類その他のについて. 神奈川県昆虫調査報告書，pp. 227-332. 神奈川県教育委員会.
- 高桑正敏，1991. 昆虫類. 横浜市陸域の生物相・生態系調査報告書，pp. 231-269. 横浜市公害対策局.
- 梅沢親光，1906. 昆虫雑記. 博物之友，34: 266-268.
- 山口貢，1965. 鳴く虫雑記 I. 神奈川虫報，(17): 14-15.
- 山口貢，1968. 鳴く虫雑記 V. 神奈川虫報，(26): 24-29.
- 山口貢，1970. その後のウミコオロギ. 神奈川虫報，(34): 12.
- 横浜市公害対策局，1983. 横浜市昆虫調査報告書. 92 pp.

（浜口哲一）